



地域日本語支援ニュース こだま 第402号

2021.5.27



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

====目次=====

1■ともに生きる：福岡市から■

日本語上達のお手伝い

小さな国際交流の会 日本語教室代表 野口 照代

2■ お知らせ (1) ■

機関誌『AJALT』44号のご紹介

3■ お知らせ (2) ■

オンライングループレッスン開講のご案内

=====

1■ともに生きる：福岡市から■

世界中、新型コロナ禍は今も収まることを知らず、私たち日本語に携わる現場も大きな打撃を受けてきました。どのような活動が可能か、戸惑いも多かった中、力強く“自分達にもできること”を探り、果敢にチャレンジを続けてきた教室があります。35年の歴史を持つ福岡市の「小さな国際交流の会」です。その活動の軌跡と今後を代表の野口照代さんにご紹介いただきます。

.....

日本語上達のお手伝い

小さな国際交流の会 日本語教室

代表 野口 照代

◆「小さな国際交流会」の概要

「小さな国際交流会」は、言葉の壁にぶつかり自分の気持ちも伝えられず、相談相手もない留学生とその家族のための《言葉を交わし、心を通わせる場》として1987年に設立しました。《何かをしてあげる》のではなく外国の人々と対等な立場で心の届く《小さな》関係を大切に活動が続けられるよう「小さな国際交流会」と名付けました。

発足当時はお国自慢の料理教室や日本の踊り、ハイキングなどのイベントを中心とした活動でしたが、1990年からは「日本語教室」を通じた国際理解や交流を行っています。

この会の趣旨に賛同する一口2000円(年)の協力会員は、設立当初からの当会独自の制度です。日本語スタッフ勉強会と7教室の学びの場は30年ほとんど変わることなく続いています。

◆ボランティアスタッフ

スタッフ相互の勉強会の場であり、コミュニケーションの場でもある「日本語スタッフ勉強会」を月2回開いています。この勉強会への出席がボランティアスタッフの入会条件となっていますが、コロナ禍では入会希望があっても参加を受け入れられない状態が続いています。

新型コロナウイルスが広がり始めたころ、スタッフによってコロナに対する警戒心に差があり、教室活動を続けることに懸念もありました。学習者はコロナの情報を正確に理解していないこともありますので、スタッフ自身がまず正しく認識し、正しく怖がることの必要性を感じました。

◆「緊急事態宣言」発令からオンライン日本語教室に至るまで

「緊急事態宣言」発令で2020年2月25日から7つの日本語教室を休止し、解除後5月28日から対面による日本語教室を再開しました。しかし、教室の参加を躊躇する学習者や高齢スタッフも出てきて、ZoomとGoogle-classroom

による取り組みを始めました。

教室休止の間、日本語学習者は内定の取り消し、雇止め、アルバイトができない、孤立、情報不足などの厳しい環境におかれていました。そこで、本格的なオンラインによる日本語教室の開始が喫緊の課題となりました。大半のスタッフがオンラインに不慣れでしたが、経験しなければ先に進まないというスタッフ間で協力し合い、「緊急事態宣言」再発令後の2021年1月13日に、7教室を従来通りの曜日と時間でオンラインによって再開させました。

#### ◆試行錯誤の取り組み

オンライン日本語教室に躊躇するスタッフもいれば、初めてのオンライン教室になじめない日本語学習者もいます。また、参加したくてもWi-Fi環境のない人たちもいました。そんな中、一番多く利用したのが「LINE」です。

7つの日本語教室にそれぞれLINEのグループがあり、日ごろから諸連絡に使っていたので、LINEは大半のメンバーと学習者が使い慣れていました。ごく少数ではありますがLINEの既読がなく何の反応もない学習者には、連絡事項のみではなく季節のことばや花の写真なども送りました。文型が不得手な人にはやさしい例文を送り、発音の苦手な学習者にはボイスメッセージを送り繰り返し聞けるようにしました。LINEを適宜送ることにより、「あなたを応援している」とのサインにもなり、親しくなるツールともなりました。

次に利用したのがスマホなどのショートメッセージやフェイスブックのメッセージャーで、E-mailの利用はZoomオンラインの招待のときに利用しました。

#### ◆対面教室とオンライン教室

4月現在は対面の教室活動を主とし、オンライン教室をオプションとして開催しています。オンライン教室は月曜日14時からと、水曜日18時からの2教室があります。再び緊急事態になったとしても、いつでもオンライン教室に戻れるようにということと、対面にはない良さもあるからです。例えば、風邪の人や妊婦でも体調さえよければ参加できること、災害時でも開催でき、交通費が掛からないことなどです。

これからもオンライン教室の課題である教材の工夫と、もっと気軽に誰もが参加できるオンライン教室を目指していきます。

◆日本語教室のこれから

コロナ禍になって、「動きを止めない」「ピンチをチャンスに」の言葉をよく耳にします。当会で初めに Zoom を利用したのはスタッフのミーティングでした。ことある毎にオンラインミーティングを重ね、諸事情で参加できないスタッフには情報の共有を徹底しました。お蔭で「動きを止めない」方はどうにか継続できています。「ピンチをチャンスに」の方はアフターコロナでの教室形態を考え直してみる時なのかもしれないと、検討を始めているところです。

\*編集部より

「小さな国際交流の会」ホームページ

<http://chiisananihongo.web.fc2.com/>

---